

【獣医学部 獣医学科】

2026 年 3 月 2 日実施 一般入学試験（第Ⅱ期）

出題の意図

【化学】

化学は様々な物質の構造や性質、変化を原子あるいは分子レベルで理解する科目で、生命科学や獣医学を含めて科学分野全般の基盤となっています。多様な物質の構造・性質・変化（化学反応）の法則性を理解するためには、化学を構成する理論、無機、有機の分野における知識と計算や原理に基づく論理的思考の両方が重要です。本年度の化学の出題では、13 問の大問を通じて理論、無機、有機の幅広い知識、理解力・論理的思考力を問うことを意図しました。また、実験結果を正しく把握し得られた結果に基づいて考察できる力は、科学を探究するために必要な技能であり、この点も問うことを意図しました。

【生物】

本学獣医学科の目的の一つである【 獣医師としての科学的思考力と応用能力を展開させることができる人材の養成 】に込めることができる能力を判定する試験問題を出題しました。科学的思考力や応用能力は、いうまでもなく基礎的知識に基づくものになります。そのため試験問題は、教科書に記載のある用語やグラフに関する基礎的知識を問う問題と、科学的思考力や応用能力を養うために必要となる考察力や読解力を判定する問題をバランスよく出題しました。考察力や読解力を判定する問題は、初見のグラフや、実験結果として得られた複数の情報（数値や文章）を元に、生命現象を論理的に解釈できるか否かを確認する内容のものとなります。

【数学】

数学は自然科学の基礎であり、科学技術に用いられるばかりでなく人間文化の様々な領域で活用されています。実験結果を客観的に分析し、現象を合理的に表現・予測するためには数理的能力が必要不可欠です。本学を受験しようとする皆さんには、高等学校学習指導要領に基づく基本的な数学の知識と技法の習得に加え、既知の知識を組合せながら筋道立てて解決する力を養ってほしいと考えています。本年度の数学では、基礎的な知識の理解力とそれらを正しく活用できる実行力を問いました。

【英語】

I 期および、Ⅱ期ともにほぼ共通の意図で問題構成をしております。Ⅱ期については、I 期では長文を 2 題、Ⅱ期では長文 1 題に短い文章を 1 題としています。出題のコンセプトはほぼ同様となります。

外国語の学習は、まずは母国語とは異なる文構造への理解が基本であると考えられます。語彙習得については、その意味でさらに基本になります。また品詞の持つそれぞれの機能・文法事項は統語を理解する上でも重要になります。論理構成が整った内容の文章を読み、理解することは英語学習で重視されることであり、高等学校の学習指導要領の「論理」に関連する事項として大事なことです。論理的な文章を正しく読み解くことは、言語活動全般においても将来的に有効であると考えています。長文における論理展開においては、問題提起となる部分、転化を導く内容、強調される主旨、あるいは筆者の説く主

張が含まれるようになっていきます。この内容の流れを限られた時間で的確に処理し、理解することが求められます。文章読解は、あらゆる学習に通じた技術でもあり、学業と社会生活においては必要なことと考えています。文法事項、語彙、論理、内容理解、主旨内容についての思考力など、総合的な英語学習の習得を測ることを意図しております。

対話文における両者の会話内容を正確に把握することは、簡潔な言葉の遣り取り＝コミュニケーションの力を問うものです。このことは要領にも示される「コミュニケーション」の内容に関連することでもあります。実際の言葉の伝達というのは、日常生活・社会活動については重視されることです。発信される内容を正確に理解することを求める出題としています。とくに英語学習においては、日常的なイデオロムについての学習も求められますし、基本動詞に関連する語法は多岐にわたるため、これらの学習が身についているかを測ることが求められると考えています。高等学校までで学習する、「対話による言葉の遣り取り」への理解を測ることを意図しています。

【獣医学部 獣医保健看護学科、動物応用科学科】

【生命・環境科学部 臨床検査技術学科、食品生命科学科、環境科学科】

2026 年 3 月 2 日実施 一般入学試験（第Ⅱ期）

出題の意図

【化学】

麻布大学では「地球共生系『人と動物と環境の共生をめざして』」を掲げて教育研究を実施しており、高等学校までの理系の学力、特に生物や化学の基礎学力を十分に備えた人を求めています。本年度の化学の出題では、四つの大問を通して、物質の構造と変化、溶液の濃度や化学反応における基本的な量的関係、無機物質および有機化合物の性質と反応など、化学に関する基礎的な内容を幅広く問いました。また、それらの知識をもとに、筋道を立てて考える力をみることも意図しました。

【生物】

2026 年度一般入試Ⅱ期 理科（生物）は、獣医保健看護学科、動物応用科学科、臨床検査技術学科、食品生命科学科、環境科学科で専門を学ぶために必要な、生物の基礎学力と自然科学的な思考の素地を評価することを意図しました。「生物基礎」「生物」から分子から生態系に至るまでを出題範囲とし、生命現象を統合的に捉える力を問いました。基礎知識の確実な理解のみならず、提示された条件や図表・データを読み取り、観察と実験結果に基づいて考察する能力を評価しました。計算問題では、複雑な計算力そのものではなく、文章を正確に読解して条件を設定し、生物学的な定義や前提を正しく運用できるかを問いました。

【数学】

数学は科学の基底的分野として、自然科学に留まらず人間文化の様々な領域で活用される学問です。科学技術分野だけでなく、社会現象を表現し予測などを行うためにも必須です。そのため、基本的な数学の知識と技法について習得しておくのはもちろんのこと、数学を十分に活用できる能力を身につけることを目指して、総合的な数学力を養うための学習を心掛けてほしいと考えています。本年度の数学の出題では、四つの大問を通じて、数学に関する基礎的な理解力と計算力、そして数理的な思考力を問うことを意図しました。

【英語】

I 期および、Ⅱ期ともにほぼ共通の意図で問題構成をしております。Ⅱ期については、I 期では長文を2題、Ⅱ期では長文1題に短い文章を1題としています。出題のコンセプトはほぼ同様となります。外国語の学習は、まずは母国語とは異なる文構造への理解が基本であると考えられます。語彙習得については、その意味でさらに基本になります。また品詞の持つそれぞれの機能・文法事項は統語を理解する上でも重要になります。論理構成が整った内容の文章を読み、理解することは英語学習で重視されることであり、高等学校の学習指導要領の「論理」に関連する事項として大事なことです。論理的な文章を正

しく読み解くことは、言語活動全般においても将来的に有効であると考えています。長文における論理展開においては、問題提起となる部分、転化を導く内容、強調される主旨、あるいは筆者の説く主張が含まれるようになっていきます。この内容の流れを限られた時間で的確に処理し、理解することが求められます。文章読解は、あらゆる学習に通じた技術でもあり、学業と社会生活においては必要なことと考えています。文法事項、語彙、論理、内容理解、主旨内容についての思考力など、総合的な英語学習の習得を測ることを意図しております。

対話文における両者の会話内容を正確に把握することは、簡潔な言葉の遣り取り＝コミュニケーションの力を問うものです。このことは要領にも示される「コミュニケーション」の内容に関連することでもあります。実際の言葉の伝達というのは、日常生活・社会活動については重視されることです。発信される内容を正確に理解することを求める出題としています。とくに英語学習においては、日常的なイディオムについての学習も求められますし、基本動詞に関連する語法は多岐にわたるため、これらの学習が身についているかを測ることが求められると考えています。高等学校までで学習する、「対話による言葉の遣り取り」への理解を測ることを意図しています。